



第8259号

2025年2月21日(金)

首相の対話力、スピーチ力、外見力

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

日米首脳会談から帰国した石破茂首相がテレビのインタビューに答える様子に「おや？」と思った。とかく話が回りくどいとか、質問をはぐらかすなどと評されてきた石破首相だが、「質問に誠実に答えている」という印象を受けたのだ。

◆ 党員から人気がある訳

初の日米首脳会談を終えて自信に満ちていたのか受け答えに余裕があった。最初にトランプ大統領の印象を問われ、「テレビで見る限りでは怖そうなおじさんだねという印象がありましたよね」と、あまりに素直な表現で答えたのに人間味を感じ、「いや、あなた(首相)も十分コワモテですが」とテレビにツッコミを入れたのは、筆者だけではないと思う。

「うん、うん」と軽くなずきながら相手の目を見て話を聞く様子や、「うん、それは」と机の上の手を上下に動かしながら、一つ一つかんで含めるように説明したかと思えば、次の質問に対しては、間髪入れずに「それはございません」ときっぱり結論から話し出す。単調ではないメリハリの利いた話しぶりで、失礼ながらこれまで抱いていた「粘っこい話し方」という印象が和らいだ。

時折、目つきが鋭くなるのも対話ではさほど気にならず、「あ～、え～」などの言葉癖は皆無で、文末表現も「ございます」「いたしました」とすっきりまとまっており、聞きやすく、理解しやすかった。総裁選の際に、「石破氏は党員から人望がある」「地方で人気がある」と耳にしたが、こういう「対話力」が慕われる理由なのではないか。

◆ 文末の歯切れの良さ

「スピーチ力」はどうかと、改めて1月24日に召集された通常国会での「施政方針演説」の動画を見てみた。まず、呼吸が深く、声が安定していて揺るがない。話す速さは1分間に275文字前後とゆっくりめだが、自然な緩急があり、キーワードが印象に残りやすい。ここでも言いよどみや言葉癖は全くなく、文末も「～であろうかというふうに思われる次第であります」のような持って回った政治的な表現はなく、「進めます」「始めます」と歯切れが良い。

◆ 身だしなみ、立ち居振る舞いに注意

ただ、残念なのは肩に力が入って姿勢が傾いたり、眼鏡がずれたりする「外見力」だ。日米首脳会談でも、政府専用機のタラップを下りる際、コートのポケットに手を入れたままだったことや、会談時の肘掛け椅子での姿勢、握手の仕方、スーツのボタンマナーなどが物議を醸した。

これまでは多少のことも人間味、気さくさなど魅力の一つとして受け止められたかもしれないが、首相となると、立ち居振る舞いの一挙手一投足に国内外の注目が集まる。髪型はいつもきれいに整っているのも身だしなみに無関心なわけでもないだろう。

日米共同記者会見の際にはマイクも気になった。トランプ氏と同じ高さに設定してあったのか、石破首相の鼻から下が常に隠れてしまう。マイクにかからないよう顔を上げると、顎が上がり、見下ろすような視線になってしまっていた。事前にマイクの高さや角度、距離感などをチェックする側近がないのだろうか。身だしなみや立ち居振る舞いを含め、どう見えるか、どう見せるかは人物の評価を左右する大事な要素だ。石破首相は勉強家だと聞く。風格と好感度を兼ね備えた信頼される首相になられることを期待したい。

(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003